

持続可能な社会の実現のため、当社が掲げる「MAX生産MAX販売」の方針の下、既存工場の設備更新により生産効率とエネルギー効率の向上を実現し、地球に優しいカーボンニュートラルの実現に貢献します

## 事業適応計画の実施期間

2026年3月～2028年3月（3年）

## 投資計画

- （1）岩手工場の生産ラインの更新投資
- （2）耳納工場の生産ラインの更新投資
- （3）栃木工場の生産設備の更新投資

## 炭素生産性の向上目標

全体で炭素生産性を15.7%以上向上させる

## 取組みの内容

- ・岩手工場及び耳納工場の生産ラインに、高効率の設備を導入することで付加価値額の増加と原単位あたりのエネルギー使用量の削減を実現する
- ・栃木工場に、高効率の生産設備を導入することによりエネルギー使用量を削減する
- ・これらの取組みに加え、会社全体の収益増加計画により炭素生産性を15.7%以上向上させる

## 支援措置

税制措置（カーボンニュートラル投資促進税制）



## 様式第十八の四（第11条の3第3項関係）

### 認定事業適応計画の内容の公表

#### 1. 認定の日付

令和7年3月31日

#### 2. 認定事業適応事業者の名称

株式会社ライフドリンク カンパニー

#### 3. 認定事業適応計画の内容

##### (1) 事業適応に係る事業の目標

昨今、持続可能な社会の実現のため、気候変動問題をはじめとした環境・社会問題への取組みの重要性が増している。天然資源である水や茶葉を原材料に、お客様が口にする飲料を製造する当社にとって、気候変動問題は、極めて重要なテーマである。

このたび、当社が進めている以下の製造設備の更新投資は、生産効率向上とCO<sub>2</sub>排出抑制により炭素生産性を向上できることから、気候変動問題の解決にも寄与するものである。

- ① 岩手工場の生産ラインの更新投資
- ② 耳納工場の生産ラインの更新投資
- ③ 栃木工場の生産設備の更新投資

##### (2) その事業の生産性を相当程度向上させることまたはその生産し、もしくは販売する商品もしくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標

2025年度を1年目とする事業適応計画であり、2027年度(目標年度)までに当社全体の炭素生産性を15.7%向上することを目標とする。

##### (3) 財務内容の健全性の向上を示す目標

2027年度(計画終了年度)に、経常利益を計上することを目標とする。

##### (4) 事業適応の類型

エネルギー利用環境負荷低減事業適応

##### (5) 計画の対象となる事業(日本標準産業分類における中分類名称およびその分類コード)

飲料・たばこ・飼料製造業(10)

計画の対象となる事業は、飲料を製造するものであるため。

(6) 事業適応の具体的内容

① 岩手工場の生産ラインの更新投資

高効率の設備導入により、付加価値額の増加と原単位あたりの生産に使用するエネルギー使用量を削減できる。

② 耳納工場の生産ラインの更新投資

高効率の設備導入により、付加価値額の増加と原単位あたりの生産に使用するエネルギー使用量を削減できる。

③ 栃木工場の生産設備の更新投資

高効率の設備導入により、生産に使用するエネルギー使用量を削減できる。

これらの取組みにより、計画3年目(2027年度)は、会社全体として、炭素生産性が15.7%向上する。

(7) 事業適応の開始時期および終了時期

開始時期:2026年3月(2025年度)

終了時期:2028年3月(2027年度)

以上